

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-1 学校・家庭・地域の連携協力による教育の充実
---------	-------------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	実証！「地域力」醸成プログラム事業		
目的	(1) 対象	公民館	
	(2) 意図	“人づくりの拠点”である公民館が培ってきた「地域力」醸成のノウハウを、モデル公民館を選定して実証し、「地域力」の重要性について世論喚起を進める。	
事業概要	学校・家庭・地域が連携して社会総がかりで教育力を充実していくためには、県民が主体的に学習・実践活動を行う「地域力」（＝自治・自立の理念に基づく地域の底力）を高めていくことが必要である。このため、地域に根ざした様々な住民自治活動の中核を担っている公民館に焦点を当てることとし、公民館が蓄積してきた成果を全県的に波及させていくため、事例を再検証し、地域力醸成のノウハウを調査・研究する。		

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	モデル公民館の選定数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		30.00	0.00	0.00	0.00	
式・定義	「地域力」を醸成していくプロセスを実証する公民館数		実績値	34.00	39.00	0.00	0.00		館
			達成率		130.00	0.00			%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00				%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	3,554	2,910
うち一般財源(千円)	3,554	2,910

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・県内に323館ある公民館等では、多様な学習活動が行われており、1館あたり1年間の講座・学級開設数が102回（全国2位；全国平均25回）となっている。
- ・一方、公民館等で実施されている講座・教室は、「家庭教育・家庭生活（1,164事業）」「趣味・けいここと（724事業）」が多く、個人の要望に応じた学習活動が中心となっている。
- ・公民館活動の活性化を図るために、平成19年度から実証！「地域力」醸成プログラム事業を実施し、これまでに128館等をモデル公民館として選定し、公民館等が実施する地域課題の解決や地域活性化につながる取組を支援してきた。
- ・市町村や公民館の取組には、差があり、公民館活動が十分でない市町村や公民館等がある。また、公民館職員数が2名以下の公民館が86館（28.7%）、年間事業費500千円以下（41.0%）の公民館が123館となっており、人的・財政的な基盤が弱い公民館がある。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・訪問研修では、公民館職員等が優れた取組をしている県内2か所のモデル公民館を実際に訪ね、地域力向上に公民館が果たした役割やノウハウについて習得した。
- ・地域力「醸成塾」では、次年度の取組の方向性を明確にし、新規事業の企画につながった。
- ・若者による企画・提案事業では、島根大学生が中心になり、地元の若者が地域活動に参加するようなモデル事業を実施したり、若手公民館職員が次年度の計画づくりを行った。
- ・複数の公民館によるふるさと教育の取組成果を研修会で発表した。
- ・これらのモデル公民館の実践事例集を関係者に配布し、広く情報発信した。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- ・モデル公民館の取組が継続せず一過性のもので終わったり、自立的な公民館活動に発展しない。
- ・モデル公民館のノウハウについて普及啓発を図っているが、他のすべての公民館まで波及しない。
- ・子どもたちを対象とする地域ふるさと体験活動が質的にも量的にも不十分である。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・市町村の財政状況が厳しいため、予算が減ると同時に取組が終了するところがある。
- ・モデル公民館の取組がよいとわかっていても、予算が足りなかったり、公民館職員の勤務日数や頭数が少ないと、新たな取組に踏み出すことができない。
- ・公民館機能が弱いと、生涯学習的な事業中心となり、「地域課題」に関する事業に取り組みない。
- ・宿泊体験活動のノウハウが周知されず、その効果についても裏付け資料が不足している。

### ③原因を解消するための「課題」

- ・公民館は市町村の施設であるが、県にとっても地域づくりを担う人づくりの拠点であると認識し、財政面、人材面の両面から総合的に市町村を支援する必要がある。
- ・宿泊を伴うふるさと体験活動のノウハウや効果について明らかにする必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・公民館機能が発揮され、公民館活動の活性化、発展につながるよう、事業費の補助、人的配置に対する補助を検討し、総合的に市町村を支援していく。
- ・宿泊を伴うふるさと体験活動のノウハウや効果について明らかにするとともに、量的・質的な充実を図っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）